



SALVATIONIST

とぎのこえ

2024年標語「世代から世代へ」(詩編145編4、5節)

二〇二四年七月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行



盛夏号

広報版
2024
July-August
No.2873

2024年 救世軍標語

「世代から世代へ」

「人々が、代々に御業をほめたたえ
 力強い御業を告げ知らせますように。
 あなたの輝き、栄光と威光
 驚くべき御業の数々をわたしは歌います。」

詩編 145 編 4、5 節



525 キャンペーン「共に主の門に入ろう」が始まりました

2025年に5人の候補生が与えられるよう、一人ひとりの献身が新たにされるよう、共に祈りましょう。デボーションガイドブックをご活用ください。



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- 『ときのかえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真：NewHope 麻布主催
のこどもまつりで

ときのかえ SALVATIONIST

盛夏号 広報版
 2024 July - August
 NO.2873

もくじ

- メッセージ
子ども伝道、何のために？
大尉 朝澤 まりこ ……3
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第33回
ジョン・ウェスレーの聖潔
一心うちに燃えて—
少佐 丸畑 幸夫 ……4
- 集会報告
525 キャンペーン出発集会
証言 西宮幸治少佐、樋口光世中尉 ……5
- 災害対策室リポート
災害対策室講習会、能登半島地震被災地
支援 続報 ……6
- 女性部ラリー
東京東海道連隊 ……6
西日本連隊 福山・高松・高知・岡山、福
岡・八幡 ……7
- 各地のニュース !!
西日本連隊、杉並小隊、京橋小隊、札幌
小隊 ……8
恵みの家 ……9
- YP (青少年部)・ファミリーニュース
帯広小隊、名古屋小隊、京都小隊 ……9
青年デー 西日本連隊、関東東北連隊 ……10
東京東海道連隊、北海道連隊 ……11
- 各地のニュース !!
NewHope 麻布 ……12
- 〈連載〉各地の小隊から
第9回 帯広小隊 ……12
- 〈連載・第27回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
(10) 信仰を養うことへの呼びかけ
(11) 聖潔への呼びかけ ……13
- 救世軍見解表明
社会道徳に対する救世軍の立場
第12回「安楽死及び自殺ほう助」(2)
第13回「ギャンブル」(1) ……14
- 召天記事、救世軍公報 ……15
- 第8回社会鍋俳句コンテスト受賞作品、
選評 ……16

メッセージ

子ども伝道、何のために？

大尉 朝澤 まりこ

「イエスに触れていた
だくために、人々が子供
たちを連れて来た。弟子
たちはこの人々を叱った。
しかし、イエスはこれを
見て憤り、弟子たちに言
われた。『子供たちをわた
しのところに来させなさい。
妨げはならない。神
の国はこのような者たち
のものである。はつきり
言っておく。子供のよう
に神の国を受け入れる人
でなければ、決してそこ
に入ることはできない。』
そして、子供たちを抱き
上げ、手を置いて祝福さ
れた。」(マルコ10・13・16)

人々が子どもたちをイエ
ス様のところへ連れて来た
時、弟子たちはそれを叱り
ました。なぜでしょうか。弟
子たちは、イエス様には、も
っとすべきことがある、子
どもの世話なんてしてい
られるか、と思ったのかし

れません。あるいは、子
どもを祝福するよりも、重病
人を癒すほうが先だ、と思
ったのかもしれない。い
ずれにせよ、子どものよう
な小さな存在は、イエス様
から祝福を受けるのにふさ
わしくない、と弟子たちは
思ったのです。

ふさわしいか、そうでな
いかを、私たちは知らず知
らずのうちに判断し、また
判断されて生活をしていま
す。高級レストランに入る
には、ふさわしい服装があ
ります。希望の学校に入る
には、ふさわしい学力が必
要です。良い生活をするに
は、ふさわしい収入を得な
なくてはなりません。

イエス様は、子どもこそ、
神の国に入るのにふさわし
い存在だとおっしゃいまし
た。子どものように神の国
を受け入れるとは、文字ど
おり、難しいことは抜きに

して、そのまま神様を信じ、
受け入れることです。

受け入れるとは、簡単な
ことではありません。私た
ち大人は、受け入れるより
も先に、自分が納得できる
説明を求めます。受け入れ
るよりも先に、それを受け
取るのにふさわしい自分に
なろうとします。自分で力
をつけて、問題を乗り越え
ようとします。しかし、神の
国に入るのにふさわしい者
の姿は、そうではないので
す。素直に祈る、素直に聖書
を読む、素直に信じる、そ
れが神の国に入るのに、ふ
さわしい者の姿です。難し
い知識や、自分の努力、見
せかけだけの良い姿は必要
ありません。

私たちは、ふさわしい者
とされる喜びを体験した一
人ひとりです。何もできな
くても、何もしなくても、あ
なたはふさわしい者だと受



少しています。少子高齢化
が叫ばれています。それが、それ
に加え、数年前から始まっ
たコロナ禍により、教会か
ら子どもの姿が極端に減っ
たようです。どのようにし
たら子どもたちが教会に集
まるのか、それが私たちの
抱える大きな課題です。

しかし、地域を見渡すと、
朝、小学校へ登校する大勢
の子どもたちの姿がありま
す。保育園や幼稚園の園庭
で遊ぶ子どもたち、大型ス
ーパーで買い物をする家族
連れの姿を多く見かけます。
子どもが減っているのは事
実ですが、私たちの地域に
子どもがいないうけではな
いのです。私たちの周りに
は、子どもたちが大勢いま
す。

私たちは、年齢や信仰の
長さにかかわらず、子ども
のように素直に祈り、子ど
ものように素直に聖書を読
み、子どものように素直に
信じ続けたいと思います。

夏の時期、日本の救世軍
では「子ども伝道週間」を
もちます。

日本の出生率は、毎年減

存続させるため、小隊、教
会を存続させるための子ど
も伝道ではないのです。

そうであるならば、来週
計画した子ども会に、思う
ように子どもが集まらな
かったとしても失敗ではあり
ません。また、前回計画し
た子ども会に、想像もしな
い人数の子どもが集まって
いたとしても、大成功と結
論づけることはできません。
その子どもたちがイエス様
と繋がりが、また繋がりが続
けるために、一人の子どもの
ために、最善を尽くし続け
ていくことが何よりも大切
だからです。子ども伝道は
その時、その時で終わるも
のではありません。

さあ、この夏、私たちは子
どもたちのために何ができ
るでしょうか。尽くし続け
ていくことのできる最善と
は何でしょうか。祈りつつ
答えを求めていきたいと思
うのです。祈りつつ出され
た答えの中に、失敗はあり
ません。神様は確かに、私
たちの小隊を前進させてく
ださいます。

(軍国青少年部付、東京東海道
連隊本部付)

連載

聖潔の流れに立つ 第三十三回

ジョン・ウエスレーの聖潔
— 心うちに燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

D. 神を知り、神を喜ぶ

メソジスト教徒とは、「神の下さった聖霊によって、神の愛がその心に注がれた者」であり、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、主なる神を愛する者」である。

メソジスト教徒とは、まず感謝と賛美の人である。そして、祈禱の人であり、眼が澄んでいて全身の明るい人である。霊性が健全であるので努めて善をおこなう人である。

ウエスレーの「聖潔」は清潔な生活をするのではなく、それは人為徳性には何らの価値を認めず、温かい神との交わりの中に均整のとれた「美の世界」を見ようとしている。「聖潔」は神の慈恵とキリストが下さる贖いによって得たものである。だから、自己の功績の否定こそ「キリスト者の完全」の第一歩である。私たちは、自分の良い行為によって御国を受け継ぐのではない。神の御意志によって与えられるのであるから、自らを買いかぶってはならない。

聖霊を経験した時に、「身体にも、心にも、感情にも、暖かさが染みわたる」と彼は言っている。聖霊によって生まれるだけでなく、聖霊によって溢れるほどに満たされるのである。

E. 人生の至福

ウエスレーの聖潔思想は人生の至福を感じることでできる実行的なものであるが、努力を必要としているから無理がある、と感じる人がいないわけではない。ウエスレーには、幾分か「キリスト教的プラトン主義」に見られる禁欲的な匂いがあるから、もっと気楽なやり方がいいのではないか、と言う人も少数ではあるが存在した。

しかし、ウエスレー自身は禁欲生活はむしろ神を悲しませると感じていた。カトリックのイグナチオ・デ・ロヨラの、身体をむち打ち、絶食し、苦行を通してキリストの啓示を求める生き方と、ウエスレーの聖潔の求め方とは異なっている。ウエスレーが求めているものは禁欲を超える神の祝福、神との平和である。主の霊の祝福ある所に自由があり、日常生活の純化がある。心に潤いのある、優しく、うれしい節度であった。ここにアウグスティヌスの円満さが生きている。

ウエスレーの批判者たちは、禁欲と節度をごちゃ混ぜにして誤解していた。

ウエスレーの「聖潔」「実践」は神への愛の「燃える心の実」であって、我慢しようとする思いは、むしろ、神に喜ばれないと知っていた。硬い概念は払拭され、神を知り、神を喜ぶことが何事にも先行されねばならないと感じた。ヤコブは私たちに、「良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです」(ヤコブの手紙1:17)と言っている。

ウエスレーと信仰を共にする者は、生活の中に、禁欲が入ってくる余地はない。感謝と賛美と祈りなどに、その喜びの姿が現れてくる。

ギリシャ哲学の中の、理性の認識や洞察による知主義なるプラトン、新プラトン主義などのヘレニズム主義は、古代、中世、近世への世界にも、アウグスティヌス等を通し、多大の影響を及ぼした。その理由は、キリスト教の母胎として重要な意味を有しているからである。

確かにプラトン主義的ヒューマニズムはヘレニズム

が中核となっている。しかしそこには、純粋なキリスト教から見ると、毒性が潜んでいる。近世宗教改革に力を尽くしたウエスレーも、その影響下にあった。ウエスレーもその毒性については気を遣っている。人間中心主義の生き方を全面的に肯定するわけにはいかなかったからである。プラトン主義が説く、肉体は悪であり、物質主義も悪であり、精神だけが聖く、現世のものから遠ざかることが聖いものだという考え方から禁欲生活が尊ばれた。トマス・ア・ケンピスの中にも幾分かこの傾向があった。しかし、今日の私たちは禁欲生活が聖い生き方だとは考えていない。

ウエスレーの体験主義はモラビアン派の信仰に負うところがあると言うものの、モラビアン派の中に現れがちな禁欲主義や律法無視主義は、むしろ警戒されなければならぬ。またその反面、放縦は神を忘れさせてしまうし、神を喜ぶことから離れて、人である自分自身を喜ばせてしまうから、禁欲と放縦は、キリスト者の完全の信仰にとって敵である。神との深い交わりの中に聖潔を求めていくことが、ウエスレーの最大関心事であった。

ウエスレーはヘレニズム的過去に原点をおくのではなく、キリストが示してくださる将来に原点をおくのであるから、過去は参考にはなるが、彼の神学の中核とはならなかった。ウエスレーは啓蒙主義的な理論には全面的に反対であったし、ヘレニズム的な人文主義とは相当な違いを感じながらも、中心的なところでは共通したのももっていた。ここがソクラテスやプラトンの偉大なところであった。

十二、神よりの光は美しい行為と化す

ウエスレーの聖潔思想には個人の霊性の完成だけではなく、この異質なギリシア的世界を統合する力が備わっていた。

しかしこの点ではカルヴァンやアウグスティヌスのほうが分別する知力に優れていた。しかしこのヘレニズム的世界観を世俗主義であると嫌う人もいる。

集会報告

「525 キャンペーン～共に主の門に入ろう」 出発集会

5月24日(金)午後7時 山室軍平記念ホール

2025年に5人の士官候補生が与えられるよう祈る取り組みである「525 キャンペーン～共に主の門に入ろう」の出発集会は、ワーシップバンドによる賛美で始まりました。

士官志願者部長勝筥実香大尉が司会をし、キャンペーンの説明、デポジションガイドブックの紹介をしました。賛美を共にし、眞鍋勝利副楽長(杉並)が開会祈祷を献げました。西宮幸治少佐と、帯広小隊士官樋口光世中尉が献身についての証言(樋口中尉は録画での証言。内容は下記)をしました。士官学校長ダニエル・テンブルマン-トゥエルズ少佐は、ガラテヤ5:16、17、22～25から「霊の導きに従って生きているなら」と題して説教。「今、日本軍国に候補生が与えられていないことをふまえ、神様がこの先に用意してくださっている大なることを期待して祈り求めよう。具体的に祈ることが大切。ペンテコステの日に弟子たちが集まって祈っているところに聖霊が降った。一人ひとりが、それぞれの生きる場所で聖霊に導かれて聖潔の生活を送るように。聖霊があなたを士官へと召しているなら、その語りかけに素直に応答し



勝筥実香大尉



西宮幸治少佐



ダニエル・T-T少佐と通訳の山谷少佐

いただきたい。霊によって一つとされ、共に前進していこう。」続いて祈りのカードを用いて、祈りの時がもたれました。

525 キャンペーンの開始にあたり、各自の献身を新たにし、主に期待して祈り続けるよう、促される時となりました。集会の様子はYouTubeで限定配信されました。

(会衆46人、YouTube視聴回数165回〈6月7日時点〉)

525 キャンペーン出発集会での証言

少佐 西宮幸治

私は現在八十五歳になります。信仰に導かれたのは十六歳の時、この神田小隊の旧会館で回心者になりました。昭和三十年の六月五日の日曜日に、数名の救世軍人が野戦をしていたのに出会い、集会のチラシをいただき、それを頼りに初めて救世軍に出席をしたのです。ブリグードに来ていた男子候補生に勧められるままに恵の座に出てお祈りをしました。それが信仰の出発点でした。

当時の小隊長は志村一郎上級少佐ご夫妻で、その導きの下で信仰を励むことになりました。回心者になってから二カ月後の八月に准兵士に、その翌月の九月には兵士になりました。志村小隊長ご夫妻は一年で名古屋に転任されました。その後に来られたのが、菅野東治中佐ご夫妻でした。菅野中佐夫人が、ある時私に「西宮さん、あなたは士官として召されていますか」と声をかけてくださったのです。その時私はまだ十七歳。十八歳になるまでに何日かありましたが、その頃私もいろいろな本を読んだり、度々救世軍の集会に出ているうちに、私は将来、イエス様の福音を人々に伝える仕事に携わるほうがよいのではないかな、と考えていた矢先でもあったので、その後、さらに真剣に考えて祈って決心をしました。

そして、十八歳の誕生日を迎えた日に、士官志願書を提出し、その年の九月に開校した『勇者』の学

年の候補生として士官学校に入りました。本当に楽しく士官学校での訓練を受けて、翌年には少尉に任官し、仙台小隊を皮切りに、各地の小隊や連隊本部、本営などで奉仕をさせていただきました。現役士官としては四十八年、引退士官として二年間、合計五十年の奉仕をして完全引退しました。完全引退の後、杉並小隊の会計として約十年、立川拘置所の教諭として十二年半ほど奉仕をさせていただきました機会が与えられました。

もし、私が士官になっていなければ、そんなにいろいろな立場で救世軍の御用にあらせていただくことはなかったと思います。神様の恵みによって士官になったことで、様々な恵みを経験させていただきました。様々な立場で奉仕をさせていただきます。心から感謝しております。

「需要は召命である」という言葉があります。今、日本の救世軍に最も必要とされるもの、それは士官志願者ではないかと思えます。どうぞ神様の召しを感じておられる方は、思い切って神様にお委ねをして献身の道へ進んでいただきたい、と心から願って証言とさせていただきます。(引退士官)

中尉 樋口光世
結婚して一年後、夫が士官としての召命を受けました。私は自分にも神様からの召命が来るのだろうか、もし来なかったら夫の献身の道を私のせいでも閉ざしてしまうことになる、ととても焦りましたし、献身への躊躇もありました。士官になったら自由がなくなってしまうんじゃないか、いろいろなも

のに縛られるんじゃないか。そのようなイメージもあっていて、不安もありました。でもその時から、献身について神様からのほつきりとした決定的な応答を待つようになりしました。大きな集会に出るたび、聖別会に出るたびに、これが召命の御言葉かな、と、毎回、神様からの応答を待っていました。

ついにその六年後に、神様は「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神」というイザヤ四一・一〇の御言葉と共に、士官としての召命を私に与えてくださいました。その時の神様からの力強い言葉と、背中をぐっと押された感覚は今もはっきりと覚えています。

一歩踏み出して献身の歩みをする中で、自分が握りしめていたものを示され、その一つ一つを手放していくという経験をしています。握りしめていたものは何か、聖霊が一つ一つ教えてくださり、この握った手を開き、イエス様への信仰によって手放す時に、何にも替えられないほどの平安と喜びがあるということが経験させていただきました。自由にならなくなる、自分らしくいられなくなる。そんなふうを考えていましたが、実際はその真逆で、献身の歩みをする中でむしろ、縛られていたものから解放されていき、もつと自由になり、もつと自分らしく、本来神様がデザインしてくださっている自分になっていくのだ、と感じています。神様がいつも私と共にいて一緒に歩んでくださるから、恐れずに、この献身の道を喜んで、感謝と賛美をもって歩んでいることを証します。ハレルヤ。(帯広小隊士官)



災害対策室レポート

●第3回災害対策室講習会、支援者へのお礼

4月22日(月)～23日(火)、杉並小隊・総合センター別館(アネックス)で開催され、災害対策室メンバーと幹部士官及び財務管理部長、財務管理部長補佐が参加しました。22日(月)開会集会は、災害対策室長藤井健次大佐補が司会、司令官スティーブン・モーリス大佐がメッセージ。続いて、社会福祉部長石川一由紀少佐が「日本軍国における災害救援活動の歴史的背景と現状」、堀浩明 災害対策室長補佐が「日本軍国における災害救援活動の整理」の講演をしました。また、「令和6年能登半島地震災害救援への対応」について、「能登ヘルプ」の活動報告と炊き出しチームの報告がありました。

23日(火)、「軍国における災害に対する備えへの取り組み」、「救世軍災害救援活動マニュアル—第1版—について」の講演がなされました。

講習会を終えた午後には、第1回目の食事(炊き出し)支援にご協力をくださった「飯田屋」の飯田結太様と「ドーナツもり」の森敬之様のところに、災害対策室長と社会福祉部岡本貴仁少佐、災害対策室東北地区担当松末泰志大尉



●令和6年能登半島地震 被災地支援活動 続報 第4回食事(炊き出し)支援

「能登ヘルプ」との協力のもと、5月14日(火)～16日(木)の日程で実施しました(14日、16日は移動日)。チームリーダーは石坂臣司少佐、調理担当リーダーは細貝信義少佐で、全国の小隊、施設、医療部から18人が参加しました。15日(水)に石川県珠洲市総合病院にて、病院職員の方々へ約240食、升谷医院(鳳珠郡能登町)職員の方々へ約50食、能登町社協職員の方々へ約25食の、温かい焼肉弁当を提供しました。下ごしらえはブース記念病院栄養科が担当しました。珠洲市総合病院の配布場所では、「能登ヘルプ」の諸藤さんによるコーヒーサービスも同時におこなわれました。

日頃、患者さんや施設利用者のために尽力しておられるエッセンシャルワーカーの方々へ、温かい手づくりのものをお届けしようと、今回の支援がおこなわれました。また、17日(金)片付けのために、医療部及び社会福祉施設、小隊戦友と士官、9人が奉仕しました。



女性部ラリー 東京東海道連隊

5月29日(水)、「なんという喜び!」のテーマで、杉並小隊・総合センターでおこなわれました。前日の風雨から一転した晴天に恵まれ、各小隊から参加者が集いました。10時30分から、①フラワーアレンジメント(講師:伊藤義明さん)、②アロマ手まり作り(講師:高島恵子少佐)、③色鉛筆絵画(講師:原田理沙さん)、④賛美(リード:吉田恭子少佐、山谷昌子少佐)、⑤Tea&Talk(担当:江原美果子オルガニスト、齋藤丈夫大尉)の中より各自希望したアクティビティの時間をもちました。講師の方々準備により、各会場は賛美の歌声や笑い声、手作業に集中して取り組む表情、アロマの良い香り、コーヒー、紅茶の香りで、幸いな場となりました。

昼食のお弁当をいただき、午後1時から礼拝の時をもちました。連隊女性部書記鈴木真理子大尉の司会、小島愛子小隊女性部書記(杉並)の奏楽で始まり、神様の恵みの中にこの時を共に過ごせることを喜び、参加者同士で挨拶をしました。アクティビティのひとつ言感想を各グループから聞き、それぞれに楽しい充実したひと時であったことを知ることができました。江東小隊士官メリッサ・テンブルマン-トゥ

エルズ少佐が日本での二度の奉仕とその間の個人的な体験を通し、御言葉に導かれて喜びの歩みを続けていることを証しました。渡邊芳江会計(江東)がイザヤ35:1～10を朗読し、軍国女性部書記西村和江大佐補が「喜び歌おう」と題して説教をしました。「身近なところにある神様の恵みに気づく者でありたい。何より、イエス様を信じる者は、イエス様の十字架と復活により、救いと聖潔の豊かな恵みを受け取っている。霊的な目が開かれ、信仰の喜びを感謝していくことができるように。」

今年は、お昼をはさんで午後までのプログラムで、ゆっくりと交流を楽しみ、久しぶりの再会を喜ぶ笑顔が会場のあちこちで見られました。新生寮、婦人寮、本営供給部、ミニバザーの販売コーナーもあり、参加者はお昼の時間と礼拝後に買い物を楽しみました。喜びの一日を感謝し、散会しました。(参加者99人)





女性部ラリー

西日本連隊

●福山・高松・高知・岡山

2024年、西日本連隊では、なるべく集まりやすい地域で、いくつかに分かれて女性部ラリーを開催することになりました。

福山・高松・高知・岡山の地区では、5月19日(日)ペンテコステサンデーにおこないました。岡山小隊を会場にペンテコステの聖別会を共にし、ランチと「押し花アートにチャレンジ」の時間を通して、久しぶりに会う皆さんとの豊かな交流を楽しみました。可能な方はどの地区への参加も、と呼びかけて、天満小隊からの参加者もありました。

聖別会では、使徒2:1~4、36~42より「聖霊を受ける」と福山小隊士官友安渚中尉がメッセージ。今も共にいて導いてくださる聖霊の恵みを感謝し、さらに求める時でした。ランチの時間には、前週におこなわれた能登での支援活動の報告を聞くことができました。活動参加者からの生の報告に被災地をより身近に感じ、祈りの必要を示されました。「押し花アートにチャレンジ」では丸畑美智子少佐からたくさんのきれいな押し花の提供があり、作り方を教えていただいて、それぞれに個性豊

●福岡・八幡小隊 懇親会(女性部ラリーも兼ねて)

5月19日(日)ペンテコステサンデーに、福岡小隊を会場に、2小隊の合同の集会をコロナ禍を経て4年ぶりにおこないました。

聖別会の司会は、今年福岡小隊に転任したばかりの加茂あづさ大尉。メッセージは八幡小隊士官樋口和光少佐が、「父が約束されたもの」と題して使徒2:1~4から語りました。八幡小隊有志によるトーンチャイムの演奏があり、今年のテーマソングと「聖霊に満たされるとき」を賛美し、柔らかい音色がホールに響きました。

午後は、歓迎昼食会と女性部ラリーを兼ねて懇親会がおこなわれました。司会を樋口愛子少佐(八幡)が務め、豊かな食事をいただいた後、お茶を飲みながら、Q & Aの時間をもちました。参加者全員が、質問に答えながら自分のことを紹介し、お互いを知り、親睦を深める時となりました。その中で、長崎から久しぶりに参加した繁田泰治さん・正子さん夫妻がエアロフォンとピアノで「心



トーンチャイムの演奏

かな作品が仕上がりました。午後に駆けつけた連隊女性部書記本村いずみ少佐が最後のお祈りを献げ、ティータイム。一致の霊に満たされた恵み豊かな時間を惜しみつつ散会しました。(聖別会20人、ランチ18人、押し花アート15人)



やさしければ」(『救世軍歌集』16番)を演奏し、それに合わせて、福岡小隊の黒木真由美さんが独唱。その柔らかな音色と歌声に癒されました。加茂あづさ大尉が奨励をし、自分の証言を含めて御言葉を語りました。最後に女性部ラリーのお土産として、八幡小隊の中川嘉春さんが用意した革細工のミニバッグと箸置きが配られました。集会后も再会を喜んで歓談する姿が見られ、豊かな恵みをいただく一日となりました。

(聖別会24人、歓迎昼食会・懇親会22人)



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

西日本連隊

●京阪神地区 召天者合同記念会

4月13日(土)、大阪市設瓜破霊園内の救世軍墓地でおこないました。

良い天候に恵まれ、ご遺族中心に昨年より多くの方が集われました。連合バンドの「主われを愛す」の前奏に続いて、「はるかにあおぎみる」をバンドの伴奏で賛美しました。関根義行曹長(天満)が開会祈禱を献げ、最初に西日本連隊長本村大輔大尉の司式で、故原田博子兵士(西成)、故藤本基恵さん(大牟田)の納骨式が執りおこなわれました。召天者名簿朗読を連隊女性部書記本村いずみ少佐がおこない、続いて、沖武史副書記(泉尾)がフィリピ 3:17



～4:1を朗読し、神戸・泉尾小隊士官立石友理恵少佐が、「私たちの本国は天にあります」と題してメッセージを取り次ぎました。

先に天に召されたお一人おひとりを偲びつつ、地上の生涯を導き天国へ迎えてくださった神様を賛美する時となりました。(出席 60人)



杉並小隊



グレイスで

●母の日サンデー 下士官任命、施設訪問

5月12日(日)母の日サンデーの聖別会は、人事・教育部長添田美和少佐の出陣でした。席上、添田少佐の司式で、下士官任命式がおこなわれました。

女性部軍曹に木村照子少佐、歓迎軍曹に宇賀神文子兵士、副楽長に眞鍋勝利兵士、楽隊書記に石坂清太郎兵士が任命されました。それぞれの働きの上に、神様の導きがありますように。また新たな任命によって、杉並小隊がますます前進できるようにと願っています。

同日午後は、恵みの家、グレイス、ブース病院に母の日訪問をし、バンド、タンバリン、歌、メッセージをお届けしました。

京橋小隊 ●下士官任命

5月5日(日)の聖別会は、書記長官西村保大佐補と軍国女性部書記西村和江大佐補の出陣でした。席上、足立和美兵士がIT軍曹と楽隊員に任命されました。戦友一同、喜び、主をほめたたえる時となりました。



札幌小隊 ●女性の働き 家庭団例会

5月5日(日)12時半からおこないました。この日は、届いたばかりの『はあもに』から国際女性デーのページと「ばいぶるメッセージ」のページを読み、学びと分かち合いをしました。日常の中で見えにくい貧困やDV、性的搾取を考え、理解を深める時となりました。その後カリンバ(箱に並んだ金属棒を親指ではじいて演奏する楽器)にチャレンジ、賛美練習しました。(参加者3人)



恵みの家 ●創立 11 周年記念集会

特別養護老人ホーム「恵みの家」は5月1日(水)、創立11周年記念集会をおこないました。

司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が出席し、7人の職員方に永年勤続の感謝状を司令官より贈呈しました。

司令官はルカによる福音書6章31節から「人々に」と題してメッセージをしました。救世軍の創立者ウィリアム・ブースが晩年、世界各地の士官へ、その働きの主眼を思い起こ

させるために送った電報に、「others」(他者)というただひと言があったことを通して、入居者のためにこれからも心を込めて、温かく接してほしい、と職員に向けて励ましのメッセージが語られました。(参加者32人)



YP (青少年部)・ファミリーニュース

帯広小隊 ●子どもと青年の国際デー

4月28日(日)、「子どもと青年の国際デー」をお祝いしました。聖別会で、子どもたちや青年たちが、開会祈

禱や特別賛美、聖書朗読などの役割を担いました。からし種のたとえ話から、子どもたちや青年たちがもっている大きな可能性を共に確認し、彼らが小隊の一員として、神様から与えられている賜物を、地域や家庭、学校や職場などそれぞれの場所で用いていくことの大切さを確認しました。



名古屋小隊 ●献児式

5月12日(日)、母の日の聖別会席上で、今年2月に誕生した伊藤瑚采(こと)ちゃんの献児式を小隊士官加藤直子少佐の司式によりおこないました。

ご両親の伊藤雅大さん、真里奈さん、お兄ちゃんのお玖くんと共に、新しい家族が加えられたことを喜び祝いました。



京都小隊 ●子どもと青年の国際デー

4月28日(日)、「子どもと青年の国際デー」について粟飯原由美子大尉が説明し、青少年部から届いた資料の中にあつた祈りの課題を日本語と英語で共有して、黙

禱しました。この日は、青年としては、ベン君(香港)、レビ君(ノルウェー)、ミルカさん(フィンランド)が集い、聖別会後は、カレーの昼食をしながら交わりの時をもちました。まさに、国際デーにふさわしく、4カ国のクリスチャンが集まって祈り交わる時となりました。

ドの救世軍人であるミルカさんとそのお母様が来られ、ベン君も大いに励まされていました。



YP (青少年部)・ファミリーニュース

西日本連隊

●青年デー in KANSAI

5月3日(金・祝)に大阪セントラルホールを会場におこない、延べ25人が参加しました。午前は「音楽練習」をし、昼食はカレーライスを皆さんでつくり、午後、「賛美集会」の時をもちました。賛美集会はYouTubeでの限定ライブ配信をしたので、八幡や広島などからも参加者がありました。「司令官夫妻と一緒に賛美しよう!」という企画で、ゲストの司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐も演奏に加わって、参加者と一緒に賛美しました。司令官夫妻から、献身に至るエピソードなど、青年たちが知らなかった話も聞くことができました。

「夕食&交流会」では、焼きそばやお好み焼きな



どを皆さんでつくり、お腹一杯に食べました。司令官夫妻が導いたゲームは盛り上がり、自己紹介や質問にも丁寧に答える夫妻と、また参加者同士の交流を楽しみました。久しぶりの連隊青年デーで、参加者皆が霊的な恵みを新たに受ける時となりました。



関東東北連隊

●ユース・スプリング・デイ・キャンプ

5月3日(金・祝)、佐野小隊を会場に開催しました。軍国青少年部長朝澤義人大尉をゲストに迎え、礼拝では、ヨハネ3:16から「あなたを諦めないイエス様」というテーマで、御言葉が語られました。子どもたち目線で語られるお話に、子どもたちはどんどん惹きつけられ、真剣にメッセージに向かい合う姿が見られました。罪深い私たちのところに来てくださったイエス・キリスト、そして神の愛を知る時となりました。

礼拝の後は、グループ対抗でゲームをしました。ゲームによって、お互いの距離が近づき、初参加の子どもたち



も緊張がほぐれ、楽しく盛り上がりました。おやつにピザを食べた後は、ゲームの続きを子どもたちが考え、時間がくるまで思いっきり遊びました。「せっかく仲良くなったのに来年まで待てない」という声も聞くことができ、祝福された会となりました。(参加者26人)

〈お知らせ〉

『キッズ・ゴスペル』はオンラインで!



2024年4月号より、『ときのこえ』福音版(1日号)4ページに、『キッズ・ゴスペル』用QRコードが掲載されています。QRコードをスマホのカメラで読み取って、紙面を閲覧することができます。紙面メッセージと連動した聖書アニメも見る事ができます。どうぞご活用ください!

※小隊、施設には印刷用データを青少年部から配布しています。

東京東海道連隊

●青年デー

5月4日(土)～6日(月)、YMCA 東山荘を会場に、おこないました。今回は主に賛美リード、集会企画を青年有志が担当しました。

1日目、参加者を歓迎するために、ゲームをし、心を開いて過ごす時をもちました。夜の賛美集会では、たくさん賛美をし、西村光輝ジュニア・ソルジャー(杉並)が自分の生活を振り返りながら、証言をしました。その後、連隊女性部書記鈴木真理子大尉がメッセージをしました。

2日目の朝はディボーションをし、聖別会を連隊長中島美和大尉が導きました。午後はミニ運動会をし、参加者同士で交流を深めました。夜のキャンプファイヤ



北海道連隊

●青年デー

5月19日(日)、帯広小隊を会場に開催されました。午前中は、ペンテコステ賛美聖別会として、連隊長石坂臣司少佐と帯広小隊士官樋口潔中尉・光世中尉夫妻による賛美チームのリードで、たくさん賛美をしました。午後のコンサートの音楽ゲスト、「サルーキ＝」(ゴスペルロックバンド)のChiyoさんが自身の救いの証言を、ゴスペルフォークシンガーの神山みささんが特別賛美を献げました。連隊長は、「世代から世代へ」と題して、詩編145:3～5から御言葉を取り次ぎました。愛餐会はおいしい牛丼を食べながら、ゲストと交わりの時を楽しみました。

午後3時から、公開の「ペンテコステ・ゴスペル・コンサート」を開催しました。司会の樋口潔中尉が参加者を歓迎し、連隊長が挨拶と第4回能登半島地震炊き出し支援の報告と社会鍋のアピールをしました。まず神山みささんがギターの弾き語りで賛美を献げ、会場は神様の愛で温かく包み込まれました。次に、札幌のカナンプレイズチャーチのメンバーで十勝出身の「劇団にっちひとり」がスキットで神様の愛を熱演し、会場には大きな笑いが起こりました。そして「サルーキ＝」の熱いロックのビートに乗って、会場はさらに盛り上がり、会場が一体となって、参加者は全身を使って神様に賛美を献げました。曲の間に語られる、「サルーキ＝」のメンバーの証言を通して、神様の偉大さ、神様がなされる大いなる御業が告げ知らされる時となりました。ペンテコステサ

ンデーに、賛美を通して聖霊に満たされ、一人ひとりが熱く燃やされ、子どもから大人まで、世代を超えて神様のすばらしさを高らかに賛美し証しする一日となりました。(聖別会25人、愛餐会25人、コンサート41人)



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

NewHope 麻布

●こどもまつり

6月1日(土)に、New Hope 麻布が主催する「こどもまつり」を、渋谷小隊を会場として開催しました。

親子あわせて110人を超える方が参加し、ヨーヨー釣りや、工作、綿あめなどを楽しみました。多くの保護者より、教会に対する要望やニーズについて、今後のプログラムへの参考となる声を聴くことができました。

New Hope 麻布では、教会とコミュニティの架け橋となることを目標に活動を続けています。裏に大きな公園がある渋谷小隊の地の利を活かし、小隊に多くの方が訪れる機会を与えられたことを主に感謝しています。また



渋谷小隊のご協力に感謝します。

これからも救世軍が地域にとってのNew Hope(新しい希望)となるようなプログラムを開催できるよう、引き続きお祈りください。



連載

各地の小隊から 第9回 帯広小隊

小隊士官 樋口潔中尉、樋口光世中尉

小隊は、北海道東部の十勝地方(人口約34万人)のほぼ中央に位置する帯広市(約17万人)にあります。帯広市は農業を主要産業とする十勝地方の中心地であり、農産物集積地、商業都市としての役割を担っています。全国でも有数の大規模経営の畑作・酪農地帯です。帯広市の面積は東京23区とほぼ同じで、南西部には日高山脈が走っています。十勝を開拓した晩成社には、鈴木銃太郎や渡辺勝・カネ夫妻などのクリスチャンがいたことは有名な話です。

帯広の救世軍の始まりは、1917年10月、当時遠軽小隊長だった田中大尉が感謝祭募金のため、帯広を訪れたことがきっかけでした。その後、1921年3月、松本助産院の松本ソノ氏宅で初めて子ども集会をしたことにより小隊の種が蒔かれました。翌1922年7月23日に開戦式がおこなわれ、帯広での救世軍の働きが正式に始

まりました。活動当初から帯広中心地の繁華街近くに会館を構え、野戦や夜襲などを積極的におこない、多くの魂がキリストに導かれてきました。地域の夏のお祭りに合せて、長年精力的におこなってきたバザーは有名です。

2022年には、コロナ禍の中でしたが、開戦100周年を記念する集会を2日間おこない、神様の

大いなる御業をたたえ、地域に証する時となりました。この数年で、これまで小隊を支えてこられた下士官の方々が次々と召天され、現在は、その子どもや孫世代が小隊の中心となって、積極的に役割を担いつつあります。パン教室やママゴスペル、ファミリーソング(乳幼児と親のための音楽と交わりのプログラム)や子育てママの会など、様々な平日のプログラムを通して、地域の幅広い世代の方々が小隊にやってきました。家庭集会が多く、家族で共に礼拝を献げていることも特徴の一つです。地域のニーズに仕え、世代を超えてみんなで神様を賛美し、礼拝を献げる小隊です。



①今年5月、パン教室 ②今年2月、ママゴスペルが超教派の賛美イベント「クロスフェスティバル」に出演 ③今年5月、ファミリーソング



2022年、100周年記念感謝と賛美のコンサート集合写真

〈連載・第27回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(10) 信仰を養うことへの呼びかけ

(承前) 救世軍には教師が、訓練を指導する人が必要です。学びを助けてくれる人を求めています。今や学びの教材は数多くあふれています。それらの中から何を選んだらよいか判断してくれる人を求めています。

様々な学びの必要に適した教材をまとめたプログラムが必要とされています。堅苦しいものや退屈なものではなく、活力を与えるものであるべきです。

信仰が弱まっているときには、たいいてい聖書の理解も弱くなっています。学びのプログラムを文化に関連したものにしようとするには、想像力と、自分たちが生きている社会についての真実な理解が必要です。知的に怠惰であったり、自己中心的であったりすると、文化的な関連を受け入れなくなりえます。しかし、救世軍が地域のレベルで何らかのインパクトを与えるためには、文化に関連した内容が欠かせません。そして、文化的な関連がどのようなものであるか、最もよくわかるのは小隊においてであり、常にそれは聖霊の導きによって明らかになるのです。

質問

1. 霊的な成熟によって、わたしたちは何に関わるようになりますか。
2. 小隊での学びのプログラムはどの程度のもので、どのような効果があるのでしょうか。
3. 小隊ではどのような訓練がおこなわれていますか。
4. プログラムや伝道の文化的な関連を進めるためには、どんな取り組みをすればよいのでしょうか。

参考になる聖書箇所

エフェソ 4・11～16、ガラテヤ 3・1～5、コリント 1・3・1～9、ヤコブ 1・5～8、テモテニ 2・15、テサロニケ 2・13

(11) 聖潔への呼びかけ

わたしたちは世界中の救世軍人に呼びかけます。個人的にも、人間関係においても、社会的にも、政治的にも、あらゆる面において、聖潔の教理をとらえ直し、身をもって表し、生きてください。文化的背景においても日々の生活の中でも、経験や表現の多様性を認め尊重しつつ、聖書に一致した生き方をしてください。

神様は人が聖くあるよう今も願っておられます。このためにキリストは死なれたのであり、このためにキリストはよみがえられ、このために聖霊は与えられました。ですから、わたしたちは神がキリストによってわたしたちに与えてくださったこの恵み深い賜物である聖潔を求めるのです。わたしたちは人間関係や社会生活において、

また活動について、聖潔への呼びかけに対して実際には持続できない経験を何度もしています。聖潔の生活を送ることは、聖霊の力が与える実によってのみ可能となるものであり、わたしたちはそのための努力を惜しまない決意をするものです。

救世軍の教理第10条では大胆に宣言しています。

「われらは、『全く潔く』されることはすべての信者の特権にして、『霊と心と体とを全く守』られて、『われらの主イエス・キリストの来りたもうとき責むべき所なき』に至り得ることを信ず。」

この教理はテサロニケの信徒への手紙一 5章23節の引用そのものです。

ヘブライ語では、神の聖性を表す言葉として「分離」されていると説明されました。ギリシャ語の新約聖書では、ハギオスまたはハギアスモスという言葉で、宗教的に同様の、神の分離や区分を表しています。

新約聖書において、イエス・キリストは無私で献身的な生涯の模範として提示され、イエスと聖霊の働きは、教会及び個人がきよめられるための手段とされています。パウロの聖性や聖潔についての言及のほとんどは、具体的な道徳的応用となっています。

ウェスレーの聖潔の教義の主張に従い、ウイリアム・ブースは聖潔を救世軍の「根本的真理」としました。「それは我々の教理の第一線に立つ」と彼は言い、「わたしたちは聖潔をわたしたちの旗に刻む。すべての人をその罪や罪を犯すことから完全に救うことができるイエス・キリストの力を、保持し宣言することができない士官は、我々の仲間にあふさわしくない」(1880年)と述べました。

サムエル・ローガン・ブレンゲル中將は、聖潔について多くの著作や説教を残しています。「救世軍の聖潔の基準」(ジョン・ウォードロン〈John Waldron〉中將の短編集『The Privilege of all Believers (すべての信者の特権)』に採録)の中で、ブレンゲル中將は述べています。「この聖潔こそ、——教理、経験、行動において——我々救世軍人が維持しなければならぬものである。さもないと、我々は信頼に背くことになるかもしれないし、自分の権利を失うかもしれない。または、地上で霊的な力を保つことができなくなるかもしれないし、生きていても死んだ者のようになり、栄光は自分から離れ、髪の毛を奪われたサムソンのように、他の人々と変わらない者になるかもしれない。」聖潔の生活についてこのように述べ、救世軍が聖潔をおろそかにした時に起こることについて警告しました。

ブレンゲル中將の預言的な言葉は、教理と経験は共に進むべきだと言っています。「教理や基準、教えなしでは、決して体験が得られないだろう。もし得られたとしても、すぐに失うだろう。もし体験がないままなら、教えはおろそかにされ、教理に対して疑ったり軽んじたりし、我々の基準は低いものになるだろう。」(続く)

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場

第12回「安楽死及び

自殺ほう助」(2)

救世軍の立場の土台となるもの

(承前) 自分自身の行為によっても、または、それをおこなうために委託された他の人によっておこなわれるにしてもです。人は誰でも無限の価値をもち、生来の尊厳をもち、どの命も神からの賜物であり、大切にされ、育てられ、救い出されるべきもの、と救世軍は考えます。神にかたどって創造された人の命は、神聖なものであり、永遠に続くものです(創世記1:27)。人間は関係性をもつようにと造られ、この関係性は、死の時も含めて、共同体の中での生活に表されるのです(コリントー12:26、ヨハネー3:14)。

死にゆく過程におけるクリスチャンの思いで最優先すべきことは、最高のケアをおこなうことです。苦痛がどれほど恐ろしいものであるか、それを十分に排除することができない葛藤などを、私たちは誰でもよく知っています。しかし、私たちが引き続き心に留めるべきことは、苦しむ人々をそのままにしておくのではなく、その人たちの苦痛をコントロールする、より良い方法を見つけることです。

実際的な対応

1. 病んでいる人、高齢者、死にゆく人に、言葉や行動で繋がりをもちることが大切です。彼らを大切に思っていること、愛していること、苦しむままに放っておくのではないことを伝えるのです。
2. 人間の命の尊厳を大切にしているなら、生涯の最後の時を過ごしているすべての人に、質の高いケアをすることが必要とされます。それゆえに、救世軍は、治療のための医療がこれ以上望めない時に、全人的ケア(身体的、感情的、心理的、社会的、霊的)をおこなう緩和サービスへの道をとります。苦痛をコントロールし、その人が安らぐことができるようにする、それがこのケアの主な目標です。
3. 人間は社会的な繋がりをもちて生きています。一人の人に起こったことは、他の人々にも甚大な影響を与えます。愛する人や友を失い悲しみ嘆く家族、直接ケアの提供者、また、より広い共同体の人々の、複雑なニーズに応えるために、支援を広げることが大切です。
4. 死にゆく方々のためのふさわしい備えをする、特に霊的な準備をする、また、愛する人々やケアをしてきた人々に、この最後のステージで何かしてほしいことがあるかどうかを尋ねておく、それもよいでしょう。
5. 4.のようなことを書いておくことで役立つでしょう。しかし、そういうことがプレッシャーになることも知っておくほうがよいでしょう。病人、高齢者、障害のあ

る人、死にゆく人々が、他の人に負担をかけてはいけない、と本当の気持ちに反することをしてしまうことがあるからです。

6. 命の最後に関わる決断は、可能な限り、死にゆく人が、医療関係者や、本人が望む愛する人々に支えられて、なすべきです。
7. もし、死にゆく人が決断をすることができない状態にあるなら、その人をよく知っている他の人々が、代理意思決定者として動くことになるでしょう。

(2013年8月大将によって承認)

第13回「ギャンブル」(1)

ギャンブルについての見解表明

救世軍はギャンブルに反対します。ギャンブルが、人から搾取し、人を欺き、人を操作するからです。それは、愛と、抑圧からの解放と、他の人々への心配りという、クリスチャンの主義に反しているからです。

ギャンブルはそのようなものですから、政府機関、慈善団体、教会、商業的利益によるものであっても、ギャンブルを、収入を生み出したり、または、経済を発展させる手段としてはならないのです。

見解表明の背景と状況

ギャンブルは人為的につくられた、運が左右するゲームで、賭けた金や品物を交換することです。勝った人の儲けは、負けた人が払います。賭けをする人は、「一握りのラッキーな人」が手にする、労せずして得る富を得ようとしますが、賭けた金の大部分は主催者の手中に残るのです。人々は損をすることはないと思ってギャンブルを始めますが、ある人々は期待をふくらませて、依存状態に陥り、社会的、心理的、霊的問題を抱えるようになるのです。

ギャンブルがありふれたものとなり、誰でもやれるものとなっており、政府がそれを奨励することもあります。ギャンブルは、宝くじ、カジノ、スロット・マシン、オンライン・ギャンブル、スポーツ賭博のような、大規模で複雑なものから、小規模で、あまり組織立っていない、運が左右するゲームまであります。毎年、世界中で数千億ドルがギャンブルに賭けられています。ここ数十年の間に、ギャンブルをする人の数は劇的に増えています。政府は合法的なギャンブルを生み出し、多くの場合、政府がギャンブルの奨励者になっています。ギャンブルのある国々では、成人人口の大多数が法的な参加です。

問題を軽減するために「早く、簡単に」手に入る金を求める人々、弱みにつけ込まれやすい人々が、ギャンブルの餌食になります。統計によると、貧しい労働階級の人々や家族が、ギャンブル産業の影響を受けやすいとあります。そういう人々は、金持ちより多くの金額を賭けることはないかもしれませんが、彼らの受ける損害は大きいのです。

(続く)





岡澤つね少佐 天に召さる

岡澤つね少佐は、2024年5月18日、救世軍清瀬病院ホスピス緩和ケア病棟から、卵巣癌のため召天されました。88歳でした。

岡澤つね少佐は、1954年10月29日、熊谷小隊より士官学校『救霊者』の学年へ入校。

1955年6月候補生軍曹、1956年6月、二級中尉に任ぜられ西新井小隊長として遣わされました。その後、清水小隊長。1960年、岡澤富保大尉と結婚。夫君と共に笠岡小隊、岡山小隊、杉並療養所（現：救世軍ブース記念病院）、清心療養園（現：救世軍清瀬病院）、郡山小隊、本営社会部、エバンゼリン・ホステル主任、自助館、自省館で奉仕されました。その後、清瀬小隊長補佐、自省館付（兼）、北海道連隊家庭団書記、札幌小隊長（兼）の任を担われました。1992年9月30日に引退されましたが、その後も清瀬病院チャプレンとして継続奉仕され、1996年10月1日に完全引退されました。様々な部門で奉仕をされましたが、その中で、アルコール依存症者回復の働きや病める人々に寄り添う働きを通して、多くの方々に神様の愛と真実を伝えられました。ホスピス病棟でも、最後まで礼拝に参加され、ボランティアの方と共に賛美を献げ、感謝の言葉を伝えておられました。

5月23日、清瀬小隊で、告別式が、清瀬小隊士官補佐吉田司少佐の司式で執りおこなわれました。御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。



寺井一夫兵士 天に召さる

清瀬小隊の寺井一夫兵士（元曹長・救世軍恵泉ホーム前顧問）は、2024年5月10日、救世軍清瀬病院より老衰により天に召されました。84歳でした。

寺井一夫兵士は、子ども時代から救世軍西新井小隊の日曜学校に出入りしておりましたが、23歳の時、明白な神との出会いを体験し、神の愛と恵みと共なる人生に変えられました。1977年、それまで勤めていた会社を辞し、救世軍恵泉ホーム職員となりました。1995年からは同ホーム施設長として長く務められました。清瀬小隊に転籍後は、青少年部の働きにも尽くされ、また楽隊員、大人部曹長として信仰の歩みを続けられました。いつもユーモアのある語り口で、ホームの利用者や職員、多くの方々に神の愛と恵みを証しされました。

恵泉ホームに入所されていましたが、今年3月、誤嚥性肺炎のため発熱し、東京病院に入院。ご本人は救世軍の病院での治療を望まれ、願いどおり救世軍清瀬病院に転院されました。その後、5月に入り、病状が急変し、10日朝、ご家族が見守る中、平安裡に召天されました。

告別式は、5月14日、清瀬小隊にて、吉田真中将司式で執りおこなわれました。御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。（小隊報）



小堀正章兵士 天に召さる

渋谷小隊の小堀正章兵士（元曹長）は、2024年5月5日、虚血性心不全のため、入所先の老人ホームより天に召されました。92歳でした。

小堀正章兵士は22歳の時に渋谷小隊兵士となり、70年間の信仰（小隊）生活の中で、唱歌隊員をはじめ、ときのかえ軍曹、新兵軍曹、大人部曹長の任を負い、その後は2016年まで柏寿会副書記、アンデレ軍曹の任を熱心に努められました。

会社を退職後は士官学校軍属としても働かれ、得意の手品を小隊や士官学校で披露されました。小堀兵士のユーモアに富んだ温かい人柄と職務に対する忠実さ、キリストに対する熱心さは、多くの人々に良い感化を与えました。

今年1月8日に最愛の妻、喜美恵兵士を天に送られたばかりでしたが、その後もご家族の協力によってZoomで聖別会に参加され、共に礼拝を守ることができました。

告別式は、5月13日、渋谷小隊で、渋谷小隊士官勝窺実香大尉司式で執りおこなわれました。御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。（小隊報）

救世軍創立
159周年記念日
7月2日(火)

救世軍公報
召天
岡澤つね少佐（熊谷小隊出身）
は、二〇二四年五月十八日、
召天。
司令官
ステイブ・モーリス



1865年7月2日の日曜日は、後に救世軍創立日として祝われるに至った、記念すべき日となった。この年のはじめにブース夫人は、東ロンドンで伝道し、転落婦人の教化に大きな関心を寄せた。この7月2日に、ブースは有志の招きに応じて東ロンドンの貧民窟に入り、数週間特別伝道に従事することになった。……彼が「クリスチャン」

誌に寄せた伝道報告に曰く、

「東ロンドンに密集する住民の、道徳的頹廃と靈的窮迫とは、首都の基督教徒の十分熟知する題目である。勤労階級の三分の二以上は、いまだかつて教会堂の門をくぐった事なく、日曜には怠惰であったり、快楽を求めたり、または何か金儲けの取引に耽った。その結果、幾万かの人々は、全く福音につき無知である。彼等は通例、神の愛の伝達に用いられる方法には近寄らない。もしも彼等に到達せんとするには、一風変わった方法が採用されねばならないのは明白である」云々。

ブースは最初ほんの数週間だけ特別伝道を催すつもりで、東ロンドンに入ったのであるが、偶然のできごとから、この地の窮民の救いに、生涯を捧げんと決意するにいたった。一夜集会後、帰宅の途中、居酒屋の前を通り、明るい灯火の下に、乱酔悪罵する労働者、無頼漢、犯罪人、売春婦等を眺め、たちまち天来の声が耳にひびくのを聞いた。「どこに行つてこんな異教徒を見出し得るだろうか、お前の勤労をこれほどに多く要する場所があるか？」と。その夜十一時すぎに帰宅した彼は、椅子に身を投げかけ、妻に向かい、今にして自分の終生の運命を発見したと告げた。……

（『人類愛の使徒 ウイリアム・ブース』救世軍出版供給部）



ことば

祈りの生活をするのは可能ですが、そのためにはやはり、何もしないでいてはだめなのです。毎日の忙しさの中にも、神様は私のことを知っていてくださり、すべての事情を理解して下さると認めることが大切なのです。編み物を習うには、根気と、繰り返し編むことが必要なように、靈的生活を培っていくためには、絶えず心を用い、神に気持ちを向ける習慣をつけることが必要です。私はいまだにそのことを学んでいるところです。

モレイグ・ヨーダー少佐

第8回 救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞作品

今回は全国から二四〇作品の応募をいただきました。ここに受賞作品を紹介し、講評を掲載いたします。おめでとうございます。

選者・唐澤 南海子氏（現代俳句協会会員、「岳」無鑑査同人、第27回俳壇賞 受賞、日本基督教団・信濃町教会員）

最優秀賞

社会鍋婚姻届け出した朝

愛媛県 星月 彩也華

評 この句を見ると与えられた今を大事に生きている作者の気持ちが伝わる。句の最後に「出した朝」この一字で爽やかな心地好い朝を思う。俳句はこのように言葉に託せるものです。

優秀賞

この意思よ明日へ届けと社会鍋

沖縄県 和宇慶 葵

評 和宇慶さんはまだ十四歳、しかし「この意思よ」と大人顔まけの気持ちを詠う。少しのことにもへこたれない、決めたことをやり抜く、ぐちを言わない。そんな少女の決意が見事です。

社会鍋未来を運ぶ乳母車

東京都 木浦 禮子

評 社会鍋と乳母車の取り合わせはとてもいい。この乳母車の赤ちゃんが救世軍の未来を担う一人ひとりとなるのです。そして皆様の貴い志がやがて大きな力となります。

社会福祉部長賞

わたしからいざ始めよう社会鍋

兵庫県 今北 葵

評 今の世の中、何かあればすぐ叩かれる。だからみんな無関心。しかしこの句は、わたしから始めねば！と詠う。恐るべき行動力、一途さが胸を打つ。

ほのぼの賞

幼子や抱つこの手から社会鍋

神奈川県 田中 和美

評 街角の社会鍋の風景の一つ。子の笑顔、母の笑顔たちまち過ぎてしまうこの時期。懐かしく想い出す。

社会なべきよりよくするといいい気持ち

東京都 高島 喜歌

評 句の真ん中をひらがなにすることで、喜歌さんの素直な気持ちが伝わってきます。

幸せのたねがいつぱい社会なべ

栃木県 佐々木 花

評 花ちゃんの引き出しには「幸せ」の種がいつぱい入っています。花ちゃん！風の力を借りてみんなでこの種飛ばそうよ。

佳作

社会鍋未来へ届けるロングパス

野崎 精子

北の果てラッパも凍る社会鍋

長谷川 誠

人といふあたたかきもの社会鍋

伊東 伸也

小さき手で温めたコイン社会鍋

石川 昇

社会鍋愛のリレーのエンドレス

武田 悟

抱っこして銀貨を入れる社会鍋

鶴飼 克枝

社会鍋十年前の感謝いま

佐藤 節美

社会鍋ブランドショップ並ぶ街

古田 小春

社会鍋家族写真も一人増え

佐藤 公

社会鍋夫婦で貯めて愛込めて

石原 弘樹

社会鍋瓦礫の街を歩きをり

浦城 亮祐

ミュージックキャンプ2024

心からの賛美を主に！

8月12日(月・祝)～14日(水)

会場：杉並小隊・総合センター、別館(アネックス)、士官学校

主催：本営音楽部

Youth Camp 2024

ユース・キャンプ2024

テーマ：「神の家族！」

8月15日(木)～17日(土)

会場：YMCA 東山荘(静岡県御殿場市)

主催：本営青少年部

7月14日(日)～8月31日(土)

こども伝道週間

7月、8月 夏期聖書学校、キャンプなど(各連隊・小隊)

(取扱支部)

発行日及び定価

▼発行日

福喜版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

▼定価

福喜版・一部 四〇〇円

広報版・一部 一〇〇円

クリスマス特集号(十二月一日号) 一部 一〇〇円

振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼 救世軍

印刷人 代表者ステイブン・モーリス

編集人 山谷 真

〒101-0051 東京都千代田区

印刷所 救世軍

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 株式会社ヒートプレス